

Rainbow Project 日本語版 会話：民泊編解説

日本語共通語話者というのは、東京方言を基盤としたアクセントで必ずしも喋っているわけではありません。それを正しいか正しくないか、美しいか美しくない、なまっていると感じるかは個々の捉え方の問題です。確かに東京人らしさはありませんが、お互いに通じるという意味での共通語であれば、批判的に捉えるのは必ずしも適切な指摘とは言えません。私はこれも現実だと捉えるのが望ましいと考えます。

民泊編では、外国人観光客が主たる登場人物です。複数の観光客が民泊で出会って、互いに交流を図り、一緒にご飯を食べるという設定になっています。「流しそうめん」では、知り合い同士で旅行に来た客とガイドを務めた日本人が、「深川めし」では、その日はじめて会う人たちが話しています。語学の能力、個人の性格などの要因が関わってきますので、ここでの会話は、教科書的なですます調に統一されているわけではなく、親しさ、よそよそしさが織り交じった話体になっています。これも現実です。

流しそうめん

1. これは何ですか？ 流しそうめん器。

外国人観光客が、日本人ガイドに見たことがないものを尋ねるところから始まります。「これは何ですか？」という質問は、買い物場面をはじめ、多くの場面で使われる表現です。ここでは、話し手に近い領域にあるので、「これ」を使っています。

2. めんつゆ？

流しそうめん器を使うために、そうめんを買いに行ったはいいけれども、麺つゆを買ってこなかったという話になっています。文化背景が分からないと、こういうことはしばしば起こるという設定です。

3. いただきます。

めんつゆを買ってきたので、ようやく流しそうめんを食べることができます。いただきますを言うか言わないかは、場面によります。家族一緒に食事をという家庭では、みんなで言うことはありますが、外食時には言わない人の方が多いでしょう。ですから、複数で会食をしている時に、いただきますと言わない人がいても、それほど違和感はありません。まして、1人で食事をする際には、言わない人の方が多いと言えます。

そうめんの薬味については、ネギ、きざみ海苔、ゴマ、おろししょうが、大葉、ミョウガなどが代表的です。これらすべてを入れるわけではなく、1~3種類ぐらいでしょう。他にも好みによって、唐辛子、たまご（生卵、半熟たまご、錦糸卵など）、サバの水煮の缶詰の汁など多種多様です。皆さんも好みを探してみてください。

深川めし

1. 何を作るんですか？ 深川めしです。

2人の宿泊客が、台所で料理を作っている女性宿泊客に「何を作るんですか？」と声をかけます。女性宿泊客は、観光先で食べて美味しかった深川めしのレシピを教えてもらい、自分でも作ってみたという設定になっています。

2. ご飯のおかずにしたこ焼きですか？

男性がおかずを買ってきてくれたので、女性は何を買ってきたのかについて「それは何ですか？」と尋ねています。これは、男性が持っているため、女性にとっては聞き手の領域になるので、「それ」を使っています。2回目は「これは何ですか？」と尋ねています。これは、買ってきたものが近くにあるので、近距離の「これ」を使っています。

ご飯のおかずにしたこ焼きというのは、一般的ではありません。近畿地方では、こういった食べ方をする人もいますが、全国的には少数派です。ここでは、いわゆる大阪ステレオタイプを会話に入れてみました。蛇足ですが、大阪出身である私もご飯にしたこ焼きは無理です。

たこ焼きだけでなく、ほうれん草の胡麻和えや唐揚げも買ってきているので、これらはおかずになりそうです。

そうこうしながら、深川めしができあがり、みんなで一緒に食べています。

特典映像

いつもの大阪弁の男性が登場します。

旅行代理店に勤めていた女性社員が、育休の後、民泊のオーナーになっていました。銀行編の特典映像から話につながっています。小さな旅行代理店の部長は、いつまでたっても現場に出なければならぬようです。

都電編でデビューした娘さんも毎年出演していますが、大きくなりました。アドリブで発した「固まってる」は、彼女にとって「動いていない」を意味する表現のようです。「みんな」は映りこんでいないスタッフも含んでいるので、撮影泣かせですが、そのまま使っています。